

第6期第6回（令和6年度第2回） 横浜市子ども・子育て会議 青少年部会 会議録	
日 時	令和6年8月28日（金）午後2時00分から午後4時30分まで
開催場所	青少年育成センター 第1研修室
出席者	津富部会長、萩原副部会長、倉根委員、島田委員、辺見委員、梁田委員、平森委員、横田委員、矢尾委員
欠席者	三輪委員
開催形態	公開（傍聴者1人）
議 題	第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画素案（案）について
決定事項等	審議の結果、事務局案の方向性について承認された。
<p>&lt;議事1&gt;第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画素案（案）について</p> <p><b>【事務局】</b>第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画素案（案）について（資料5）</p> <p>（事務局）</p> <p>まず、事前にいただいたご意見・ご質問について、回答させていただく。</p> <p>小中高生の暴力発生率の問題について取り上げてほしいとの御意見をいただいております。記載場所は調整させていただくが、計画の中で触れていくよう検討する。</p> <p>こどものウェルビーイングの向上に関するアウトカム指標について、いくつかアイデアをいただいた。どのようなものが入れられるか今後、検討していく。横浜市立大と連携して実施した調査については、どこまで継続的に実施できるか分からないが検討していく。</p> <p>現状と課題に記載の「子ども・若者を取り巻く環境は、地域のつながりの希薄化、少子化の進展」に「外遊び環境の変化」を入れることについては、記載内容を工夫していく。</p> <p>こどもが自由に思い切って外遊びできる環境は限られてきている。課題は共通した認識なので、ご指摘を踏まえて、記載内容を工夫していく。</p> <p>7つの方向性の「こどもの『預けやすさが実感』できている」という表現に違和感がある、といったご指摘について、「預けやすさの実感」については、横浜子育てサポートシステムなど、地域ぐるみの子育て支援も当然含むものと考えており、いただいたご指摘については「基本施策2「地域における子育て支援の充実」に盛り込んでいる。</p> <p>異年齢のこどもとの関わりづくりについては、基本施策4「目標・方向性」において「将来、自分らしいライフプランを選択できるよう、低年齢からわかりやすく妊娠、出産も含めた健康に関する正しい知識を伝える取組を充実させます」との文言を記載している。具体的な事業も施策4に記載しており、取組を進めている。</p> <p>（萩原副部会長）</p> <p>都内のこどもたちの放課後の公園利用調査の結果、外遊びの環境としては非常に厳しいことが分かった。平成27年には神奈川県教育委員会が大規模な放課後の居場所に関する調査を実施したが、今回の計画に記載のニーズ調査結果と同様に、こどもたちの潜在的なニーズは友だちとの外遊びをしたく、また、保護者も自由に遊ばせたいと感じている。しかし、自由に外で遊べないため、こどもたちにとって相当ストレスになっている。</p> <p>小学生の暴力行為の発生件数が増加しており、その背景には、外遊びの環境が制限されていることや、こどもたちのニーズを満たせていないことが考えられる。</p> <p>（津富部会長）</p>	

こども・若者の置かれている状況の変化について、テーマを持って調査研究を行った方が良い。こども・若者はどんどん変化している。

(事務局)

何らかの調査などをする必要性は感じている。

(津富部会長)

こどものウェルビーイングと居場所の数は相関していると言われる。居場所をいくつ持っているかをアウトカム指標に入れるといいのではないかと。

(事務局)

国の調査を確認し、検討していきたい。

(辺見委員)

地域の公園が17時で閉まってしまうため遊ぶことができない。

(津富部会長)

放課後は、学校の校庭であまり遊べないのではないかと。先生の負担を増やさない形で、大人の見守りがある中で、放課後も校庭で遊べるといい。

(事務局)

規模の大きい公園だと開園時間が限定されている場合もある。

学校は朝の開門が遅くなっている。今年度から朝の居場所づくりというのを市内2か所の小学校で始めており、登録している方の子どもの居場所として大人の見守りのもと過ごすということをやっている。

青少年地域活動拠点は遅くまで開いているので、学校と連携して子どもが過ごせたり、既存施設との連携をしながら場所を確保していくということを進めていきたい。

(梁田委員)

放課後キッズクラブの利用は低学年が中心で、高学年は少なくなっている。スタッフの負担もあり、放課後の校庭開放は難しいようだ。高学年の遊び場はずっと問題になっている。

外で遊べない分、お金はかかるがこどもログハウスのような施設も必要だと思う。民間団体（指定管理）と地域が連携して子どもを見守る姿勢が大事だとは思うが、「すべての大人がこども・若者の育成・支援を自らの責務として認識し」と書かれており、社会の要請としてどのような地域を作っていくべきか。

(事務局)

こどもログハウスは1区に1館あり、貴重なこどもの居場所となっている。計画に位置付けることで環境整備にもつなげていきたい。

次の世代を育てるのは大人として当然のことだが、地域の様々な方が連携していただくことで地域のネットワークづくりができると良い。文章の表現は工夫したい。

(矢尾委員)

こども・若者の意見表明は、事業ごとに行うだけでなく、SNSなどを活用してオープンで身近な場にあった方が良い。身近なものから少しずつ意見が反映されていくことが、こども・若者の社会参画への促進につながる。

(事務局)

こども・子育て基本条例が制定され、毎年こどもの意見を聞いて反映していくことを市会で報告することが義務付けられた。こども青少年局や教育委員会では当然やっていくが、ハード系の部

局も報告することになるので、これまで以上に市として色々な形でこどもの意見を聴く取組を進めていく。

(島田委員)

中学生高校生になると、学校教育の中でも課題も多いと思う。横浜総合高校など、多くのNPOや地域の人たちとの関わりをロールモデルにできたらいいのではないかな。また、こどもにも意見を聴ける機会があるとよい。

(横田委員)

高校は学校の所在地と生徒の居住地が異なることが多いため、地域とのつながりづくりの難しさを感じる。ようこそカフェでは、複数のNPOが連携して取り組んでおり、学校の先生との連携も進んでいる。

(事務局)

居場所に対する様々な意見をいただきたいと思っている。意見をしっかりともらい、事例を庁内でも共有する術を考えたい。

(津富部会長)

スウェーデンではこども・若者がある程度組織化されており、マニュアル等があり、構造的に声を吸い上げるようになっている。日本の場合、消費者の声を聴くという感じになっている。こども・若者側が自分で意見をとりまとめられるようになり、意見を伝えるという経験ができると良い。

アウトカム指標として、どんな体験をしているか、カウントするのはどうか。できれば、アウトカム指標は全数で調査して、地域・エリアごとにフィードバックできるとよい。市全体のほか、マッピングして地域ごとのこどもの居場所などのデータを把握した方がよい。こどもの貧困率などのデータも重ね合わせるなど、体験格差などを考える参考ともできる。

(事務局)

こども・若者の意見を聴く仕組みについて、個別の事業で必要に応じて聴いているが、そもそも市全体の仕組みでどうか、ということだと思う。勉強していきたい。

体験活動の機会は地域の活動も様々。どのようなことをやっているのか広く確認することを、今後どのように取り入れられるか考えていきたい。地域ごとの状況を確認するのは必要。南区は資源の状況についてマップをつくっている。参考にして横展開していきたい。

(倉根委員)

基本的な視点の1つに「子育て世代にゆとりを創り出すための支援」があり、大事なことだと思っているが、自分の子どもより自分自身を優先して子どもと向き合う時間が減っていたりする印象を受けることもあり、支援が充実して親が育たないということも感じる。「こどもまんなか」で考えるために、親に関することもフォーカスされると良い。

(事務局)

「子育て世代にゆとりを創り出すための支援」は新たに加えた部分となる。共働きが増えている中で余裕がなくなってきたという点にフォーカスしている。親子の幸せにつながるようというところを考えているが、自分を優先してしまう親が増えていることや、子どもがいることそのものが負担と誤解を招かないようにしないといけないと他部会で指摘を受けた。計画を作るプロセスは同じ目的をもって共通認識をもつためのプロセスと思っている。メッセージの打出し方・表現は考えたい。

(津富部会長)

子育てをアウトソーシングしていると思う。親も消費者化している。こども・若者だけでなく親も

変化している。研究や調査をして変化を把握して考えた方がよいのではないか。

施策6について、困難を抱えているこども・若者に対しては継続的にフォローアップしていくことが大事。機関連携についての指標も工夫するといいい。

(事務局)

年齢の壁みたいなどころはあるが、切れ目のない支援を実現するための関係機関連携、世帯全体を視野に入れた支援など、継続的に支援していくというところが大事だと思う。青少年相談センターから地域ユースプラザ、若者サポートステーションにつないだりと連携を図っている。今後も引き続き対応していきたい。

(津富部会長)

アウトカム指標について、こども・若者の変化を測ることが多いかと思うが、機関間連携がどのくらいできているかなど、環境側を測ることも大事。

(辺見委員)

こども・若者の不安や悩みが軽減しているとはどのようなことか。「気持ちが軽くなった」とはどのような数字か。

(事務局)

よこはま子ども・若者相談室でのLINE相談後にアンケートを取らせていただいております、そのアンケートの中で「気持ちが軽くなった」を選択していただいた方の割合となる。

(辺見委員)

相談後にフォローはあるのか。

(事務局)

ケースバイケースだが、相談員側からお声がけをさせていただくこともある。

また、よこはま・子ども若者相談室は、全ての悩みごとをこの相談で解決しようとするものではなく、ちょっとした悩みを吐き出せる場所でもある。必要があれば別の支援機関につなげるなど、しっかりとフォローを行っていく。

(島田委員)

ヤングケアラー支援事業は国の方でも取り組んでいると思うが、様々なフォローが広がっている。新たにケアラーを支援する団体だけでなく、既存の団体にも周知してフォローするとよい。

(事務局)

既に支援に取り組んでいただいている中で、ヤングケアラーを改めて認識してこども・若者に接していくということもある。補助金や研修の実施、改めてきちんと理解して支援の内容を一緒に考えていければと思う。ケアを受ける方が悪いというような誤解を与えないように見守りを考えていくとともに、当事者の思いに寄り添っていくというところが大事と実感している。

(津富部会長)

若者が社会参加している、というアウトカムがあるが、困難を抱えているこども・若者の基本的な問題は孤立だと思う。友達が増えている、や困ったときに相談できる相手を持つ、などが大事。友達をどうつくったらいいのか、そういうところを測っていく方が大事。同世代の人間と一緒に安心して歳をとっていけると良い。そのようなことをどのような施策でも意識していただきたい。

(事務局)

他者との人間関係、家族や友人、第三者との関係において孤立したり、ひきこもってしまう人が相談者に多くみられる。他の人とどう関わっていけばいいのか、集団活動を通して本人の状況を見なが

ら、その人にとって望ましい社会生活の形を関係機関と連携を図りながら進めている。支援者や地域にも知ってもらえるように取組を進めていく。ピアサポーターなど当事者によるサポートもあわせて受けられるように展開している。引き続き今後の取組を進めていきたい。

(萩原副部長)

社会的な孤立というところで世田谷区の児童館・ユースセンターの職員にアンケートを取ったが、親子のスキンシップも含め、0歳からすでにコミュニケーション不足が起きている。親の早期の職場復帰により子育てサークルも減っている。学齢期になると習い事や塾でさらに忙しくなり、友人同士のコミュニケーションが減っており危うさを感じている。社会にでても職場にもなじめず、近隣とのつながりもなく孤立状態。他者と関わるスキルが育っていない。すべてのこども・若者に関わることとしてとらえ、施策4・6が連動しているということについての理解が必要。

(事務局)

すごく感じる場所がある。認識しながらやらないといけない。

(萩原副部長)

外遊びの環境としての公園施策はとても重要。こどもにとって利用頻度が高い公共施設は公園。公園は居場所施設ととらえなおして、しっかりと計画に位置付けていく必要がある。

(津富部長)

コミュニケーションの場面で、「他人の領域に入らない」という意識が強くなってきているが、ある程度そのような状況を経験していかないとコミュニケーション力が身につかない。ある程度意図的に他者との距離を縮めたり、一緒に活動する経験があるといい。親子だけで遊んでいる姿も見られる。

(事務局)

他局事業もできるだけ入れ込んでいる。こどもログハウスの他にも他局の体験機会や居場所事業を入れている。公園については「基本施策9 社会全体で子どもを大切に作る地域づくりの推進」に入れている。こどもや保護者が憩える場のような形で入れていた。居場所としての公園も大変重要と感じたので施策4にも入れたい。

(梁田委員)

こども・若者が楽しいと思える時間をつくる、ということが有効ではないか。いわゆる普通の生活ができないこどもに寄り添う専門家、地域の人もいる。体験活動が充実するとよい。

自分のこどもの成長を見つつ、親も一緒に成長できるような世の中になると良い。

(事務局)

家庭で課題を抱える家庭で体験の機会が難しい。寄り添い型生活支援事業の中では、居場所のような事業を実施している。楽しみにできるイベントも行っていきたい。

(津富部長)

こどもが群れる機会が減っている。距離が縮められるような機会をたくさん作れるよう、他局にもこども青少年局から伝えてほしい。

閉 会

資料

資料1 横浜市子ども・子育て会議青少年部会 委員名簿

資料2 横浜市子ども・子育て会議青少年部会 事務局名簿

資料3 横浜市子ども・子育て会議条例

	資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱 資料5 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画素案（案）
特記事項	